

平成 30 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12874

研究課題名(和文) ジョシュア・マーシュマンの聖書漢訳：漢字音に基づいた解明

研究課題名(英文) An analysis of (missionary) Joshua Marshman's Chinese translation of the Holy Bible

研究代表者

吉川 雅之 (Yoshikawa, Masayuki)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：30313159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、宣教師ジョシュア・マーシュマンが1810年から11年にかけてインドのセランポールで印行した漢訳の「マタイによる福音書」と「マルコによる福音書」を基礎資料とし、モリソンの漢訳聖書『新遺詔書』を模倣する以前のマーシュマンがどのように聖書を漢訳したか、そしてそこに反映する言語の体系と特徴が如何なるものであったかを考察した。考察の主たる対象は、漢字で表記された、音訳を経た人名や地名である。

研究成果の概要(英文)：Christian missionary Joshua Marshman published Chinese trial versions of the Gospel of Matthew in 1810 and the Gospel of Mark in the same or following year in Serampore, India. In these two gospels, Marshman did not imitate the Chinese translation of the bible Xinyizhaoshu by Robert Morrison. Using these two gospels for base material, this study examines Marshman's translation process into Chinese and the language system and features reflected in them. This study mainly focuses on the analysis of personal and place names as they are transliterated into Chinese characters.

研究分野：中国語学

キーワード：東西文化交流 漢訳聖書 福音書 音訳語 粵語(広東語) 古典ギリシア語 アルメニア語 マカオ

1. 研究開始当初の背景

ジョシュア・マーシュマン (Joshua Marshman, 1768-1837) は 19 世紀に於ける西洋人の漢語研究の先駆者であると同時に、聖書漢訳の歴史に於ける最重要人物の一人として、マカオを拠点に同様の活動を行ったモリソン (Robert Morrison) と並び称される。英領インドのセランポールでキリスト教の布教活動と教育に従事していたマーシュマンは、澳門で生まれ育ったアルメニア人ラサル (Johannes Lassar) の協力を得て、1809 年に漢語についての学位論文『Dissertation on the characters and sounds of the Chinese language』と、『論語』の部分訳『The works of Confucius』を著している。彼は聖書漢訳の作業も並行して進めており、翌年には「マタイによる福音書」の漢訳『此嘉語由孛挑所著』(以下、『マタイ』と称す)、翌々年には「マルコによる福音書」の漢訳『此嘉音由孛勒所著』(以下、『マルコ』と略す)を印行した。但し、『マルコ』の印行を『マタイ』と同年とする文献も存在する。現在知られている限り、プロテスタント宣教師による福音書の漢訳は、この両書を以て嚆矢とする。両書は共に文言を基調とする古典中国語で記されている。

マーシュマンによる漢訳聖書を考察対象とした研究は、21 世紀に入って以降現れている。しかし、それは 1815 年以降に漢訳が進められ刊行された新約聖書を考察対象とした研究であり、本研究が考察対象とする 1810~11 年印行の福音書を対象とした研究は、事実上存在しない。マーシュマンが 1815 年以降の新約聖書で行った漢訳がモリソンの漢訳聖書『新遺詔書』の模倣であったのとは異なり、『マタイ』と『マルコ』で行った漢訳はラサルとの共同作業に基づいた、独自のものである。この点で、『マタイ』と『マルコ』の学術的価値は、その訳出文体の漢語としての生硬さ、更には誤謬を差し引いたとしても、1815 年以降の新約聖書を遙かに凌ぐ。その独自性は音韻・語彙・文法の全てを覆っており、他の宣教師の漢訳による経文と対照すれば、その違いは一目瞭然である。

一方で、マーシュマンが英領インドで学んだ漢語の音韻体系や特徴が如何なるものであったかについては、彼の著書『Dissertation』、『The works of Confucius』や『中国言法』(1814 年刊)に記される漢字とラテン文字音標に対して分析を行うことで、その把握が可能となる。その先駆けと言ふべき研究は、本科研の研究代表者である吉川による「J・マーシュマンの記した粵語方言」(『日本中国語学会第 58 回全国大会予稿集』、2008 年)と『中国言法』に記される漢字音の複層性について(『日本中国語学会第 59 回全国大会予稿集』、2009 年)である。続いて、吉川は「两份早於馬禮遜的粵語資料」(『粵語跨學科研究』、2009 年)と「馬士曼所記録之粵語音——十八世紀末的澳門方言」

(『Journal of Chinese Linguistics』、2014 年)でマーシュマンがラサルから学んだ粵語音(即ち広東語音)がマカオ方言であったことと、その基本的情報を明らかにした。しかし、『Dissertation』や『The works of Confucius』に現れない漢字については音価の推定が困難であるため、漢字音体系の全容解明に至ったわけではない。

この様に、マーシュマンによる聖書漢訳と漢語研究は、依然としてその大部分が未解明である。そしてその解明は、言語学のみならず文献学や歴史学に於いても俟たれるべきものである。

2. 研究の目的

本研究はマーシュマンにとっての最初の漢訳である福音書『マタイ』と『マルコ』を基礎資料とし、モリソンの漢訳聖書『新遺詔書』を模倣する以前のマーシュマンが、どの様に聖書を漢訳したか、そしてそこに反映する言語の体系と特徴が如何なるものであったかを解明することを目標とする。

両書の翻訳過程の解明は、プロテスタント宣教師が聖書漢訳(文言)の黎明期に於いて、どの様に漢語という半ば未知の言語の読者と意思疎通を行ったか、キリスト教徒にとって自明である概念を表す語形が必ずしも存在しない漢語に訳出する方策はどのようなものであったか、という根本的な問いに対する答えを導き出すことになる。一方で、両書に反映する言語の体系と特徴の解明は、マーシュマンが学んだ漢語に対する全容解明のみならず、その漢訳に際して生じた音韻変化の規則の把握をも可能にするものである。

「3. 研究の方法」で後述する様に、両書の翻訳には多言語の介在が認められる。故に、両書を基礎資料として意思疎通、翻訳過程、言語体系、音韻変化を問うこと自体は一基礎研究に過ぎないとはいえ、そこから得られる答えは言語・文献・歴史に関わる諸分野に貢献するものと期待される。

3. 研究の方法

バプティスト教会の『A Memoir of the Serampore Translations for 1813』(1815 年刊)に引用されるマーシュマンの書簡では、「ラサルがアルメニア語の知識に基づいて、英語から漢語に訳し、それを自分がギリシア語聖書を参照して一句ずつ修正した」と述べられている。この記述に依拠すると、『マタイ』と『マルコ』の翻訳には、アルメニア語版だけでなく古典ギリシア語版、英語版の聖書が参照されたと推測される。

両書の人名・地名は基本的に音訳を経た形式で漢字にて記されている。その音訳は、他の宣教師の漢訳による聖書が官話音に基づいたのとは一線を画し、粵語音を反映する独特な形式となっている。

本研究は、次の 4 つの段階を踏んで進める。

第一段階では、両書に現れる音訳語のデータベースを作成し、その全体像を把握する。第二段階では、音訳に際して生じた音韻変化の規則の解明を行う。第三段階では、マーシュマンの書簡をはじめとする、翻訳過程についての情報を記す文献資料の調査を行う。最後に第四段階では、第二段階と第三段階で得られた知見を統合し、漢訳がどのような意思疎通と作業過程を経たものであったかについて仮説を提示する。

4. 研究成果

研究期間中に行った主な研究活動は以下のとおりである。

(1) 『マタイ』と『マルコ』に現れる、音訳がなされた人名・地名を抽出し、その全てに対して漢語音(絶対的多数は粵語音)による音価を推定する作業を行った。それに続いて、その推定音価を英語や古典ギリシア語の音価と比較する作業を行った。また、一部分の音訳語については、アルメニア語の音価との比較も行った。これらの情報はデータベースとして保存した。

(2) 両書の音訳語が同一の音韻体系を反映するものであることを確認した。また、他の漢訳聖書の語形との比較を行い、両書の訳語の独自性を確認した。

(3) オクスフォード大学アングス図書館での文献調査を計3回行い、当館に所蔵されるマーシュマンと所属教会との書簡を閲覧し、ラサール以外にマーシュマンの事業を補助していた人物として、少なくとも華人1名が存在していたことを確認した。

(4) ケンブリッジ大学図書館での文献調査を計2回行い、音訳語だけでなく章句の漢訳方法について、両書が他の漢訳聖書とは異なる、独特のものであることを確認した。

(5) マーシュマンとモリソンを先駆とする19世紀の欧米人が、中国の諸言語をどのような構図で捉えていたかについて、文献に基づいた網羅的な調査を行い、彼らがどの言語種を漢語の標準もしくは権威と見なしたか、実証に基づく考察を行った。

(6) 『マルコ』の翻訳過程を解明すべく、音訳語に限定しない、語形面と統語面に跨がる包括的な分析を行った。

(7) 『マタイ』について、上記(6)と同様の包括的な分析に着手した。

(8) 両書の音訳語に対する分析を通して、マーシュマンの『Dissertation』と『The works of Confucius』に現れない若干数の漢字について、その音価の推定を試みた。そして、その推定音価を『Dissertation』と『The works of Confucius』の漢字音の推定音価と統合することで、マーシュマンが英領インドで学んだ漢語の音韻体系全体について考察を行った。

以上(1)(2)(4)(6)で得られた知見については、国際学会で行った口頭発表にて、その一部分を論じた。(5)で行った考察の結

果は学術誌に投稿し、掲載された。(7)で着手した分析については、得られた知見をまとめ次第、学会で口頭発表を行う予定である。(8)で行った考察の結果については、18世紀末期のマカオの粵語音の全貌の解明を視野に入れた学術論文として文章化を進めており、脱稿次第速やかに学術誌に投稿する予定である。

尚、研究期間中に新たに複数の疑問が生じたことを付言しておきたい。両書に散見される、漢語(文言)として不自然な形式がその一つである。その全面的な把握と、その産出メカニズムに対する考察は、今後鋭意進めていく所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

吉川 雅之、『英語官話合講』の正音、中国語学、査読有、No.263、2016年、pp.44-62

吉川 雅之、十九世紀在華欧米人の官話像—階級変種・標準変種・地域変種、ことばと社会、査読有、No.17、2015年、pp.51-80

[学会発表](計3件)

YOSHIKAWA Masayuki. The literary style of Marshman's Chinese version of Mark's Gospel. 10th International Conference of Missionary Linguistics. 2018年3月23日. Sapienza University of Rome & Pontifical Urbaniana University (イタリア)

吉川 雅之、基於域外資料的早期粵語研究：其回顧與前瞻、二十一世紀的明清研究：新視角、新發見、新領域、2017年10月20日、香港大學(香港)

吉川 雅之、早期客家話文獻中的特徵詞書寫—西方人採取の字形選擇、國立高雄師範大學 客家文化研究所 專題演講會、2017年3月29日、國立高雄師範大學(台湾) 招待講演

[その他]

学会予稿集(計2件)

YOSHIKAWA Masayuki. The literary style of Marshman's Chinese version of Mark's Gospel. Book of abstracts of 10th International Conference of Missionary Linguistics. 2018年. p.84

吉川 雅之、基於域外資料的早期粵語研究：其回顧與前瞻、會議手冊：二十一世紀的明清研究：新視角、新發見、新領域、2017年、p.27

エッセイ(計1件)

吉川 雅之、広東語の広東語たる所以、パ

ブリッシャーズ・レビュー、No.178、2016
年、第6面「ことば紀行」

ホームページ等

[http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongko
ng-macao/index.html](http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongko
ng-macao/index.html)

[http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongko
ng-macao/grant-in-aid_2015-2017.html](http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongko
ng-macao/grant-in-aid_2015-2017.html)

6．研究組織

(1)研究代表者

吉川 雅之 (YOSHIKAWA, Masayuki)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：30313159